 〒729-4207 広島県三次市吉舎町敷地 68 番地 5 特別養護老人ホーム こじか荘 TEL0824-43-3117

こじか荘だより
夏

特集 ～夢をかたちに～

ご利用者の夢と笑顔をのせて カープ応援ツアー

球場で食べる
カレーは美味いよ！

すご～い！！

気になりませんか？認知症のこと…

認知症ケアの現場から…その一

ある朝、勤務すると居室棟入り口のドアの前に風呂敷包みと紙袋が置いてある。「ああ、Mさん夕べも帰ろうとされたんだ。」と思う。数時間後、Sさんが、「裏道はどこかいね？」と聞かれる。「何をしたいのですか？」と伺うと、「帰らんといけんのんよ。」と。昼食後、また、Mさん等三人が横一列になって、各自荷物を持って「帰ります。」と玄関へ向かわれる。

こういう状態が毎日ではないがよく見られる。いわゆる「帰宅願望」。しかし、それぞれに理由がある。そして、そのベースには「ここは自分の居場所ではない。」「落ち着ける場所ではない。」という思いがある。

それはそうかなと思う。私たちも勤務が終わってから、「今日は帰れません。暫くここに居てください。美味しい食事、ふかふかの布団、大きなテレビ、温泉のようなお風呂がありますから。」と言われても、そうそう納得はいかない。

帰宅願望の対応は難しい。手本となるものなどないと思う。ただ、私が気をつけている事は、まず、最初にその行動や想いを止める言葉を掛けない事。「何処に行くんですか。」「どうしたんですか。」と聞かない事。いけない事をしている、責められている、と思われるような気がするから。そして、「息子さんに頼まれているんです。」など、ご家族を悪者にしない事。お一人お一人の生活暦、家族暦、既往歴を把握し、頭の中に引き出しをいっぱい作る事。「何をしたいのですか。」と声を掛けた後、その引き出しの中から瞬時に、相手の反応に添った言葉を見つける作業を行う事。これが、なかなか周囲からは分かりにくい大変な作業です。

認知症ケアの基本は「尊厳の保持」だと思います。その場しのぎのいい加減な言葉や、情のない嘘を並べたり、誰かを悪者にしたり、無理やり制止したり、無視したりする事なく、正面からしっかりと受け止めて、「帰りたい。」という気持ちに寄り添いたいと思います。

介護の現場はめまぐるしく、身体介護に関わる時間に追われています。そんな中で、外に出ようとされたり、「帰りたい。」と訴えられるご利用者にしっかり向き合うことはなかなか困難です。でも、とにかく笑顔で、腕の長さの程よい距離から、優しい言葉を掛けながら、ご利用者の困っておられる部分に手を貸し、耳を傾ける、そんな基本的な認知症ケアに、こじか荘の職員は今日も頑張っています。

認知症ケア専門士
介護部長　岸本裕子

認知症ケアの楽しさを見つけて

私は高齢者介護の世界に入り七年目です。認知症のご利用者とのかかわりの難しさに悩むこともありますが、昨年度、認知症介護実践研修に参加し、認知症のご利用者に向き合う介護の姿勢を再認識し、また、実習を通してご利用者の新たな一面を知ることができました。その一つのケースをお伝えします。

Aさんは、日にち・場所等見当をつける事が難しく、いつも不安を抱えておられるようで、一日に何回もコールを押しては、「どうしたらいいん。」と今の自分の状況をたずねられます。ベッドでの臥床も好まれ離床をなかなかされません。実習中、Aさんの不安な状態を少しでも解消したいと、コミュニケーションを図ることに一層力を入れました。Aさんの生活の様子や、会話の中から「歌が好き」ということがわかりカラオケに取り組むことにしました。その時間はとても表情が良く、口ずさみながら参加されています。ちなみに好きな歌は「岸壁の母」です。「今日も歌に行きますか」と聞くと「行く」と元気良く返事をされたり、私のことを「歌の先生」だと言われたりと、今までと違った様子が見られるようになりました。不安な時間が楽しい時間に変わっていったAさん、私達がその方に合ったアプローチをすることで生き生きとした生活が構築されていく、これが、私達の働きがいであり、働くことの楽しさになっています。

これからもご利用者の方の今の心の中に想いをはせ、日々の介護に努めたいと思います。

介護士　田邊晃宏

日常の一コマ

《特養》

〔生け花〕

これでいいかしら？

祝　百歳！！
おめでとうございます

〔お花見会にて〕

やっぱり神楽はいいね～

〔庭木の剪定〕

かっこよく せにゃ～の～

〔荘内販売にて〕

♪どれにしようかしら？

〔おやつ作り〕

おいしかった！

《通所》

しっかり　楽しく！
体を動かして！！

〔お花見弁当〕

おいしいわよ～

こじか観音様　いつもありがとう

毛糸のてるてるぼうず
雨あ～がれ！

食中毒に気をつけましょう

看護課だより ～その一～

★食中毒予防の三原則★

1、細菌をつけない！（洗う・分ける・包む）
2、細菌をふやさない！（冷凍・冷蔵・室温で長く放置しない）
3、細菌をやっつける！（中心まで加熱・調理器具の殺菌）

★家庭で出来る六つのポイント★

1、買い物をするとき―消費期限の確認、早い持ち帰り
2、家庭での保存―すぐ冷蔵庫へ、入れるのは七割程度に
3、下準備の時―生ものを扱った後の手洗い、台所用品の小まめな洗浄
4、調理の時―調理の前の手洗い、冷蔵庫から出してすぐ調理、しっかり加熱
5、食事の時―手洗い、室温で長く置かず早めに食べる
6、残った食品―容器に小分けして冷蔵庫で保存、食べるときは再加熱、怪しいと思ったら捨てる。

食中毒は蒸し暑い梅雨の時期から夏にかけて多発しますが、最近は冬場に発症しやすいノロウィルスなどもあり、１年を通じて見られるようになりました。ここ3～4年急増しています。

メモ
飲食物を介して感染すると→食中毒
手指や嘔吐物などを介して感染すると→感染症

最近よく耳にする「0157」や「ノロウィルス」は発症すると吐き気、嘔吐、腹痛、下痢、発熱の症状が出ます。これらの症状が出たら脱水になるおそれがあります。水分補給をしましょう。まずは医療機関を受診しましょう。また、嘔吐物や便の処理は蔓延を防止するために、使い捨て手袋やマスクを着用して行いましょう。

暑い日が続きますが、元気で毎日生活していくためにも、食中毒にならないように心がけてください。

准看護師　北川はるえ

食中毒発生模擬訓練風景

ボランティア

4月
10日　鯰谷美紀枝様（散髪）
17日　穴傘神楽団（神楽）
29日　天理教広島教区北部支部様（清掃）
30日　むつみ会様（シーツ交換）

5月
2日　鯰谷美紀枝様（散髪）
21日　むすび会様（シーツ交換）

6月
10日　鯰谷美紀枝様（散髪）

ありがとうございました

寄付

4月
増田佳姿様（カセットテープ）

5月
丸田忠衛様（たけのこ・書道道具）
備北地域メーデー実行委員会様（タオル）

6月
原田美保子様（タオル）

ボランティア係り
介護士　熊谷裕子

掲示板

夏祭り（特養）
8月7日に行います

納涼祭（通所）
8月10日～15日まで行います

元気ハツラツ教室（通所）
6月より始めました

灯籠製作開始
今年も8月15日の吉舎ふれあい祭りに向けて灯ろうを作成しています。ご期待下さい。

編集後記

これからの夏本番に向けてこまめな水分摂取を心掛けながら元気に乗り切りましょう！
今年度より委員になりました。
よろしくお願いします！
広報委員　森木幸雄